



2024年度啓発委員研修会が実施されました！

今年度の啓発委員研修会は自分の立ち位置はどこ（A：無知・無関心層、B：差別をする・容認する層、C：差別をされる・いやな思いにされる層、D：差別を無くす・無くそうと活動する層）に立っているのかを考えることを目的に連続4回実施されました。一回目は反差別・人権研究所みえの荻田実樹さんに「メディア・リテラシーと人権」と題して講演をしていただき、その後班別で懇談を行いました。二回目は「日常の自身の思い込みから考える」意識せずにする発言や行動で差別をしていないかを振り返りました。違いが無いのに違い有るが如く作られた部落差別（同和問題）について自分自身はどうなのか？を懇談を通して考えました。三回目は「地区懇談会の参加者の発言」についてその立ち位置がA B C Dのどこかを考えたり、自分が気になる発言はどれかとその理由について話し合いました（夜の部は残念ながら地震の発生で気象庁より南海トラフ地震臨時情報が発表されたため、研修会は途中中止となりました）。第四回目は町別・団体別懇談会に向けて（夜の部は三回目の内容を取り入れながら）「わたしのものさし」で同和問題について各々の考えを発言する班別懇談をしながら町別・団体別懇談会の進め方の情報交換ができる機会としました。研修会を通して自分自身が同和問題や人権について考え、懇談会の大切さを多くの参加者が気づききっかけとなったように思います。多くの人は「知らなかったことの情報」を初めて聞いた時（特に信頼する人からの時）その情報を正しいと認識してしまいがちです。あの国の人間は信頼出来ないとか、あの人は怖いとか、あの地区は日雇い労働者のまちとか、あそこは風俗のまちとか、あそこは高級住宅街とか、報道機関から流れた情報がその中の特定の人だったとしても、その町全体がそうだと認識していることが多いのです。情報が本当に正しいかを立ち止まって考えたり、確認することが大切で、特に人権に関わることはより重要です。私たちが無意識に発した言葉や行動で他人を傷つけたり、時には命さえ奪う事になることを真に留意せねばならないと気づかされた研修会でした。



啓発委員研修1回目講演中の様子



委員研修1回目講演後のグループ別懇談

本年度は神前小学校に会場をお借りし、実施いたしました。延べ405名の参加でした。

啓発委員研修会を終えて ～～ 参加者の感想とアンケートより ～～

（神前こども園からの参加者（PTA 役員、教職員）の感想より）

- 啓発委員研修に参加することで、いろいろな方と話ができ、人権や部落問題について考える機会になった。無知であることは悪いことだと思っていたが、少しずつ知ることがより大事だと思った。
- 差別はいけないことはわかっているけれど、実際に差別に出会った時に、自分はどのように行動できるか？とゆれた。
- 実際に差別をされた方の話を聞き、現在も部落差別があることを実感した。
- 差別をなくしていきたい、差別をしない子どもたちを育てていきたい。啓発委員研修が自分の価値観を見直したり、立ち止まって考える機会になった。話をする中で、正しいことを言わなくてはと思う自分がいることに気づいた。身の回りでおかしいと思った時に、周りの人と話していきたい。
- 啓発委員研修での学びを基にPTA 役員と職員が一緒になって部落差別について話して行きたい

（自治会役員になり啓発委員に初めて選出された方の感想より）

- 啓発委員研修に初めて参加しました。同和問題というテーマに対して4日間の研修のみで地区別懇談会を進行する事は難しいと思った。また研修内容の中には答えを誘導する様な設問と違和感を感じられるものもあったが、本音で会話できる方たちもいて私個人としては大変有意義な時間でした。



（アンケートに記載された感想より）

- 研修会のスタートとして講演会があるのは、一定のスタートラインが揃うとともに、その後の研修会でも話題にできるのでありがたかったです。
 - 同じ職場以外の年齢や経験・立場など様々な人が集まったグループで話しができたのがよかった。差別をする自分に立ち止まり差別をなくすためにはどうするか、沢山の人の意見を聞いて自分の「ものさし」はどうなのだろうと考える機会になった。長年同推協に関わってきた方もグループの中にいて、今までの経験や神前同推協で大切にしてきたことについて聞くこともできてよかった。またこういう場で話をしていくことで自分の立ち位置を振り返ることを続けていきたいと思った。
 - 差別用語って何だろう？悪意なく発した言葉が差別だと言われると傷つく。（しかしその言葉を聞いて、もっと深く傷つくかも知れない人がいることを知ることが必要なのですね）
 - 今回のメンバーも初めての方からベテラン？の方まで様々で、研修会での新しい出会いに感謝している。この様な会に今までマイナスイメージだった参加者の一人が、この機会ですれすれでもプラス思考になり、今後に繋がれば良いと思う。
 - コロナや地震の話など、身近に誰しも直面する（していた）話題と重ね合わせて話ができ、初めての参加の方にも分かり易かったと思う。また最近三重県で起きた土地購入（土地差別）問題の話も出て、まだまだ三重県全体にもそういう学習は必要なんだと改めて実感した。寝た子を起こすのではなく、正しい知識、意識を持って、いつかの出会いに向けてみんなが力をつけられればと思う。私自身も、まだまだ揺れる部分はたくさんあるので、いろんな情報に耳を傾け、自分の心を見つめ直していきたいと思う。（アンケート集計から抜粋）
- 次回の委員研修会開催内容についての意見がありました。
アンケート結果を踏まえ、来年度の委員研修の参考にします。



委員研修班別懇談の様子

～～～ 最近人権の話でよく聞く次の言葉の意味を知っていますか？ ～～～

- ★ **マイノリティ** : 社会的に少数の条件を有する人(「少数派」・「少数者」)を意味します。
例えば、外国人、障がい者、女性、LGBTQの人、被差別部落出身者、シングル家庭、経済的に不安定や厳しい生活を送る人等のことを指しています。(minority)
- ★ **マジョリティ** : 社会的に多数の条件を有する人(「多数派」や「多数者」)を示しています。
マイノリティの反対語です。(majority) 日本にルーツを持つ日本人、日本人社会構造の中の男性、健常者、一般的な二人親家庭、被差別部落以外の出身の人、生活、金銭的に不安の無い人等
- **マジョリティの特権について** : (上智大学の出口真紀子教授が主唱)「特権」とは努力せずに偶然に得た属性がマジョリティであることによって、特定の社会で自動的に得られる、あらゆる優位性や恩恵のこと。本人は無意識で得られているこの特権に気づいていないため、マイノリティが不平等を強いられている制度的差別や、構造的差別に気づくことが出来ずにいることが問題。例えば、異性愛者であるだけで、カップルとなり婚姻届を提出できるし、日本で法的に認められたカップルとなり、死亡保険の受け取りが出来たり、家族として認められその恩恵を受ける事が出来る。反面、LGBTQ等マイノリティの人はその権利を多くの人々が認められていない。「差別とは何か」を学ばないと、自分が無意識に差別を生み出し、維持する制度や構造、慣習や慣行を容認し、差別に加担してしまうといった課題意識をもてるアプローチも重要となる。
- ★ **アンコンシャスバイアス** : 無意識の偏見や思い込み、決めつけのこと。私たちはこの社会構造から受ける情報から、何かを判断する時に、自分では気づかないうちに持つ・機能している、ものや人への見方や考え方、とらえ方のことを指します。公共広告機構 AC ジャパンのCMで「聞こえてきたのは男性の声ですか？それとも女性の声ですか？」というのを見聞きした方はいるかと思います。それは思い込みに対する指摘や考えるきっかけづくりの意識を促しています。
- ★ **マイクロアグレッション** : 「日常的差別」「無意識の差別」といわれます。これは発言した側には差別する意図、人を傷つけようとする思考が無くても、発言等を受けた側にとっては、侮辱されている、下に見られている、否定されている、疎外感を持たされた、ステレオタイプで見られた等々の被害を日常的に、短いスパンで連続的に受け、やる気や気力を奪われるだけでなく、被害者の人生で様々な場面で悪影響をもたらす問題のこと。例として「黒人は走りが早い」「海外ルーツなのに日本語が上手」「障がい者も同じ人間だと思った・普通に接することが必要と思った」等の発言。日本人(同様の立場のもの)同士の会話にでてこないというような点でも侮辱的になる事も知っておかねばならない。

上記は人権フェスタ神前でお世話になった、反差別人権研究所みえの松村元樹さん文章を一部引用しました。

◎ 町別・団体別懇談会が始まります!!



同和問題・人権問題について各町(自治会)や団体別懇談会が開催されます。興味のある方はお住まいの各自治会や、所属する団体の懇談会にぜひ参加下さい。
各町・団体にはそれぞれの人権に関する(まちづくりを含めて)問題もあると思います。ぜひ皆さんで本音で懇談して下さい。

◎ 西部ブロック人同協 人権映画会開催のご案内!!

西部ブロック人権・同和教育推進連絡協議会主催

西部ブロックは三重、川島、桜、神前、県 の5地区で構成されています

映画「お終活」 熟春! 人生、百年時代の過ごし方

日時: 2024年10月27日(日) 受付 13時~ 開会・上映 13時30分~

場所: 三重小学校体育館 駐車場: 運動場(極力乗り合わせで参加ください台数制限有り)

入場無料 問合せ先: 三重地区市民センター内地域団体事務局 TEL: 331-8282

◎ 啓発委員研修会であった話「普通(ふつう)」について

普通ってなに: 普通を辞書では: 広く一般的に通じること。通常、なみとある。ふつうの対義語は特別。哲学の視点からの「普通」という言葉は意味の範囲が広く、ありふれている、珍しくない、平均的、一般的な等との意味で使われる。

「普通」はその人の基準によって異なり、絶対的な「普通」はない。「普通」という言葉は時と場合、場所によって変化する。私たちが気をつけなくてはいけないのは、自分の感じる「普通」は他の人の「普通」とは異なることが往々にしてあるということ、また人間関係の「普通に付き合う」は、特別な関係でないから曖昧さを持つ(「普通」はある意味自身の考えがない状態: 周り、世間の判断に委ねている状態)。子どもに対して「普通の子は・・・」などと、という言葉で使うことで、その子の個性や特長を阻害しかねない(過剰のプレッシャーを与え兼ねない)ので特に注意したい。自分は部落差別をしていない理由に友達がいるからとか、普通に付き合っているからと言う人がいるが、差別意識は点(個人)の問題ではなく、面(全体)の問題であることに気付いて欲しいと願っています。(他地区の場合でも同じ表現をするかどうか?も考えてみてください)



同推協啓発委員
随時募集中

啓発委員になっていただける方は市民センターロビーに設置してあるポストにお名前を記入して投函してください。(申込用紙は置いてあります。)電話・FAX・メールでも受け付けます。啓発委員になっていただければ委員研修会やイベントに参加していただいたり、同推協の活動内容のお知らせを送付いたします。

【問合せ先】神前地区市民センター内 団体事務局 Tel・fax 059-327-1501 (受付午後)
Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp